

資料に親しむ会 令和7年度第1回

「活字になっている中世の古文書を読もう！」

京都府立京都学・歴彩館職員が「活字になっている中世の古文書を読もう！」を、下記のとおり開催しました。

記

■ 日 時 令和7年5月21日（水）午後2時30分～3時30分

■ 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール

■ 参加者数 65名

■ 内 容 古文書というと墨と筆で和紙に書かれているものというイメージが強いが、今回は活字となっている中世の古文書を取り上げた。翻刻出版された史料集について、「東寺百合文書」のように古文書の網羅を目指すもの、鎌倉時代の文書を集めている「鎌倉遺文」のように目的・テーマに沿って取捨選択したものなど、分類し紹介した。
また、古文書を実際に読むにあたっては、声に出す、書き写す、耳で聞くことや書かれた状況を読み取ることが大事であるという視点などを紹介した。

■ 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）

- ・古文書の定義などがわかった。比較言語のおはなしが楽しかった。古文書を理解する術を学んだように思います。
- ・古文書を読む（理解する）ためのコツが少しわかった。
- ・書く、声に出して読む、耳で聞く、ということにそうだなと思いました。
- ・文書の書かれた状況をしっかり読み取らなければならない、という貴重な視点をいただき、とても有意義でした。
- ・とてもわかりやすかった。同じようなテーマの講座でこのような内容のものを聞いたことがなく楽しかった

（講座の様子）

